

外科第2

1. 臨床医学教育の現状と評価

(1) 臨床医学教育の目標

- 1) 基礎医学に基づいた正しい病態の把握と診断
- 2) 合理的な治療方針の設定
- 3) 正確な手技の修得
- 4) 患者への温かい思いやりに基づく対話、指導
- 5) 正しいインフォームドコンセント

(2) 医員、医員（研修医）の現状と研修実績

1) 初期研修医の現状について

a. 研修実績について（対象期間：平成9年度～12年度）

入局者数と本院での研修期間（月数：平均値）

年 度	9年度	10年度	11年度	12年度
入局者数	3人	5人	1人	4人
研修期間	12ヶ月	12ヶ月	12ヶ月	6～12ヶ月

b. ローテート方式研修の実績

平成9年度：3人、研修した他科名：3人全員：心臓・血管外科

平成10年度：5人、研修した他科名：5人全員：〃

平成11年度：1人、研修した他科名：1人：第1内科、第2内科、心外

平成12年度：4人、研修した他科名：4人全員：心外

2) 医員の受入れ状況（対象期間：平成9年度～12年度）

年 度	9年度	10年度	11年度	12年度
採用者数	6人	10人	8人	5人

(3) 指導体制について

- 1) 研修医は直接指導医（教官）よりマンツーマンの指導を受け、消化器、呼吸器、心外の3班をローテイトする。
- 2) 担当医としてその患者の入院から退院まで一貫して担当。
- 3) 症例検討会に毎週参加、学会、研究会等で発表。

(4) 研修の評価について

指導教官、グループ長、科長がカリキュラム（目標）項目について評価する。

(5) 関連研修施設の現状

- 1) アルメイダ病院 2) 新別府病院 3) 厚生連鶴見病院
- 4) 県立三重病院 5) 竹田医師会病院 6) 大分中村病院
- 7) 天心堂へつぎ病院 8) 三愛病院 9) 西田病院
- 10) 長門記念病院 11) 大分共立病院 12) 大分岡病院
- 13) 大久保病院 14) 大腸肛門病センター高野病院

15) 宇佐胃腸病院 16) 別府中村病院 17) 小深田病院

(6) 臨床教授

藤富 豊 (大分県厚生連鶴見病院副院長 外科)

(7) 認定医・専門医・指導医の取得状況 (平成9年度-12年度)

- 1) 日本外科学会／認定医27名、指導医1名
- 2) 日本胸部外科学会／認定医6名、指導医1名
- 3) 日本消化器外科学会／認定医21名、専門医1名、指導医1名
- 4) 日本消化器病学会／認定医5名、指導医1名
- 5) 日本大腸肛門病学会／専門医5名、指導医1名

(8) 学会認定施設の状況

- 1) 日本外科学会認定施設
- 2) 日本胸部外科学会認定施設
- 3) 日本消化器外科学会認定施設
- 4) 日本消化器病学会認定施設
- 5) 日本消化器内視鏡学会認定施設
- 6) 日本大腸肛門病学会認定施設

※今後の課題と改善策

- ・毎年入局者数が安定しておればカリキュラムの運用が容易となる。
- ・卒後早期の研修中は、単に知識・技術の修得だけでなく、外科医としての人間形成に重要な時期である。

2. 臨床医学研究の現状と評価

(1) 臨床医学研究の目標

- 1) 診断、治療成績の向上のために臨床データの解析、実験モデルを用いての病態の解明に努力する。
- 2) 具体的には、患者の術後QOLの向上を目指して食道再建術、胃全摘後の代用胃形成術の研究。とくに逆流性食道炎の防止と食道癌発生の防止。
さらに食道癌、胃癌、大腸癌、肺癌の遺伝子解析を行い、癌治療の個別化の確立を目指す。

(2) 研究スタッフ

教授 1名、助教授 1名、講師 2名、助手 5名 (うち1名は心外兼任)
実験助手 (非常勤職員) 3名
事務職員 (非常勤職員) 2名

(3) 研究領域と研究課題 (対象期間：平成9年度-12年度)

主な研究課題名

- 1) 食道・胃切除後再建術式の改良によるQOLの向上
- 2) 食道癌・胃癌・肺癌の遺伝子解析による治療法の開発
- 3) 逆流性食道炎の前癌病態の意義と癌化の防止
- 4) 消化管癌、肺癌のリンパ行性転移とSNNSの開発

(4) 博士(医学)の学位の取得状況(平成9年度-12年度)

年 度	9年度	10年度	11年度	12年度
取得者数	4名	0名	5名	3名

(5) 学会、研究会活動(シンポジウム、特別講演、学会役職等)

年 度	9年度	10年度	11年度	12年度
学会発表 (国際)	5回	3回	2回	2回
(国内)	70回	65回	35回	35回
(地方)	50回	46回	35回	28回
(司会・座長)	11回	13回	9回	9回
シンポジウム特別講演等 (国際)	0回	0回	0回	0回
(国内)	4回	8回	4回	8回
(地方)	0回	2回	0回	0回
(司会・座長)	2回	5回	3回	7回

学会役職(評議員、理事等)(平成9年度-平成12年度)	
日本外科学会	内田 雄三(評議員,諸委員会委員)
日本胸部外科学会	内田 雄三(評議員、理事(H・9) 副会長(H・11)、会長(H・12))
日本消化器外科学会	内田 雄三(評議員)
日本消化器病学会	内田 雄三(評議員)
日本臨床外科学会	内田 雄三(評議員)
日本外科系連合学会	内田 雄三(評議員)
日本大腸肛門病学会	内田 雄三(評議員)
日本脈管学会	内田 雄三(評議員)
日本気管食道科学会	内田 雄三(評議員,理事)
日本リンパ学会	内田 雄三(評議員) 野口 剛(評議員)
日本胃癌学会	内田 雄三(評議員)
日本消化器癌発生学会	内田 雄三(評議員,理事) 野口 剛(評議員)
日本創傷治癒学会	内田 雄三(評議員,理事)
日本ヒト細胞学会	野口 剛(評議員)
日本腹部救急医学会	内田 雄三(評議員)
日本消化器免疫学会	内田 雄三(評議員)
日本内視鏡外科学会	内田 雄三(評議員)
国際外科学会日本部会	内田 雄三(評議員,理事)
日本食道疾患研究会	内田 雄三(世話人、第53回当番世話人)
小腸移植研究会	内田 雄三(世話人)
胃外科・術後障害研究会	内田 雄三(世話人)
手術手技研究会	内田 雄三(世話人)
日本呼吸器外科学会	内田 雄三(評議員)
日本肺癌学会	内田 雄三(評議員) 三浦 隆(評議員)

胃液分泌研究会	内田 雄三 (幹事)
肥満・栄養障害研究会	内田 雄三 (世話人)
日本癌病態治療研究会	内田 雄三 (世話人)
九州外科学会	内田 雄三、野口 剛、久保 宣博 村上 信一 (評議員)
日本胸部外科学会九州地方会	内田 雄三、野口 剛、 村上 信一 (評議員)
日本消化器病学会九州支部	内田 雄三、野口 剛、 村上 信一、久保 宣博 (評議員)
九州癌学会	内田 雄三、野口 剛、 村上 信一 (評議員)
日本大腸肛門病学会九州支部	内田 雄三、野口 剛、 唐原 和秀、菊地 隆一、 久保 宣博 (評議員)
九州外科代謝栄養研究会	内田 雄三 (世話人) 唐原 和秀 (幹事)

(6) 研究論文 (英文、和文) (平成9年度-12年度)

- 1) Takeno, S. et al: Effects of gastrin on the histamino-secretory and prohoferatre activity of cultured carcinoid colls derived from the stomach of the rodent Mastomys natalensis. Pathology International, 47: 95-102, 1997
- 2) Kudo, T. et al: Organization of nitric oxide-producing nerves in the rat pyloric sphincter. Arch. Histol. Cytol., 61: 361-372, 1998
- 3) 野口 剛, 他: 噴門部早期癌の外科治療, とくに噴切後再建術の新しい工夫. 日本外科学会雑誌, 99: 569-574, 1998
- 4) Noguchi, T. et al: FHIT gene gastric cancer: Association with tumor progression and prognosis. J. Pathol., 188: 378-381, 1999
- 5) Noguchi, T. et al: Clinico pathological and immunohistochemical study of cancer arising from Barrett's esophagus. Oncology Reports, 6: 1293-1297, 1999
- 6) Kikuchi, R. et al: Immunohistochemical Detection of Membrane-type-1-matrix Metalloproteinase in colo-rectal carcinoma. Brit. J. Cancer, 83: 215-218, 2000
- 7) Takeno, S. et al: Multiple gastric carcinomas 21 years after gastrojejunostomy without gastrectomy. Dig. Surg., 17: 531-537, 2000
- 8) Miura, T. et al: Lymphatic drainage of carbon particles injected into the pleural cavity of the monkey, as studied by video-assisted thoracoscopy and electron microscopy. J.Thorac. Cardiovasc. Surg., 120: 437-447, 2000
- 9) Tohara, K. et al: Initiation of phase III contractions in the jejunum by atropine, kexamethonium and xylocaine in conscious dogs. Nerogastro enterol. Mot., 12: 11-21, 2000
- 10) Kubo, N. et al: Injury to the gastric mucosa and cellular dynamics in a rat model of dusoofenogastric reflux: The posible signioficance of gastrine Induction and a heat shock protein. Surg. Today, 30: 999-1004, 2000

(7) 高度先進医療開発研究の現状

3. 診療の現状と評価

(1) 診療の目標

- 1) 温かい医療、evidence based Medicine の提供
- 2) 食道癌、胃癌、大腸癌、肺癌の治療成績の向上
- 3) 食道癌、胃癌切除後再建術式の改良によるQOLの向上
- 4) 遺伝子解析による癌悪性度の判定と癌治療の個別化

(2) 診療実績（平成9年度－12年度）

区 分	平成9年度	平成10年度	平成11年度	平成12年度
外 来 患 者 数	6,570人	5,628人	5,115人	4,928人
初 診 患 者 数	350人	377人	401人	390人
紹 介 患 者 数	229人	238人	223人	249人
入 院 患 者 数	15,341人	15,570人	16,016人	15,658人
平 均 在 院 日 数	44.1日	44.6日	44.3日	35.1日
平均病床稼働率	105.1%	102.4%	99.5%	97.5%
死 亡 退 院 率	5.5%	6.9%	6.4%	6.2%
剖 検 率	9.1%	8.0%	4.4%	3.7%

(3) 特殊検査・手術症例等

- 1) 食道内圧測定、24時間食道内pH連続測定等を用いた嚥下機能評価と嚥下障害の解析
- 2) 胃切除再建術後の機能評価と胃再建術の工夫
- 3) 縦隔鏡、胸腔鏡を用いた検査・手術

(4) 特殊専門外来

- 1) 食べたものが胸につかえる人の食道外来
- 2) 胸やけがある人の食道外来

(5) 高度先進医療・先端医療の導入

- 1) ビリテックを用いた逆流性食道炎の病態解明と食道癌発生防止
- 2) 胸腔鏡下手術

※今後の課題と改善策

- ・大学以外施設でやりづらい領域の疾患を集めて特定機能病院としての性格を明確にし、他病院との機能分担を行う。大分県内の食道疾患患者のほとんどが当院を訪れているので、十分にその期待に応えたい。

4. 国際交流について（平成9年度－12年度）

(1) 国際医療協力体制

(2) 留学（長期外国出張）

- 1) デュッセルドルフ大学（ドイツ）、平成8年～平成10年、1名
- 2) デュッセルドルフ大学（ドイツ）、平成11年～平成13年、1名

(3) 外国出張（国際学会活動など）

- 1) 平成9年 国際胃癌学会 3名、ドイツ（ミュンヘン）
- 2) 平成11年 国際胃癌学会 4名、韓国（ソウル）

3) 平成11年 国際消化器癌発生学会 1名, ドイツ (ウルム)

4) 平成12年 なし

(4) 外国人研究者の受け入れ状況

鄭 建国 (中国)、文部省国費留学生、平成10～12年

※今後の課題と改善策

- ・ドイツ、デュッセルドルフ大学病理学教室 (H.E.Gabbert教授) と「癌の分子生物学的研究」の共同研究中であり、今後人材を確保して若手研究者を留学させ、研究を進展させたい。

5. 国内学会や研究会の開催 (平成9年度～12年度)

診療科で担当した地方学会・研究会、全国規模の学会・研究会

学 会 等 の 名 称	開催期日	参加人員	発表形式	その他
第28回創傷治癒研究会	H10年12月5日	約100名	一般演題 特別講演 シンポジウム	大分東洋ホテル
第53回日本食道疾患研究会	H11年6月 18・19日	約300名	一般演題 特別講演	大分コンパル ホール
第53回日本胸部外科学会総会	H12年10月 25・26・27日	約3200名	一般演題 特別講演 教育講演 記念講演	別府B-Con Plaza
日本胸部外科学会市民公開講座	H12年10月28日	約200名	シンポジウム	大分県総合文化セン ター・グランシアタ

※今後の課題と改善策

- ・学会を主催するに必要な資金集めが困難になる一方である。大分県に公益財団を設立して、学会運営をスムーズにする必要あり。

6. 地域との関わり

診療科で担当した大分県内の研修会、研究会について

研修会等の名称	開催頻度	参加人員	発表形式	認定医資格継続適合の有無
大分外科侵襲懇話会	計7回	約50名	一般演題 特別講演	日本医師会生涯教育
大分GERD研究会	1回	約80名	〃	〃
大分腸疾患セミナー	3回	約80名	〃	〃
大分がん遺伝子外科フォーラム	1回	約50名	〃	〃
大分 Gut - Science	1回	約50名	〃	〃
大分県外科医会	計2回			
大分Biochemical Moduration(BCM)研究会	1回	約100名	一般演題 特別講演	日本医師会生涯教育
P S K 学 術 講 演 会	1回	約100名	特別講演	

※今後の課題と改善策

- ・大きな学会を主催するには資金の運用が困難になった。1人の教授が、任期中に主催する全国規模の大型学会は1回が限度であろう。研究会、セミナー等を頻回に行って地域に貢献する。

7. 診療科の特色

- (1) 大分県内の食道疾患（癌、機能性疾患）のほとんど全例が集まって来る。全国的にも症例数の多い施設であり、日本食道疾患研究会の有力メンバーとして委員を務めている。
- (2) 胃切除後代用胃形成
- (3) 胸腔鏡下手術（肺・食道疾患）

8. 将来展望

- (1) 現在すでに北九州、宮崎県からも食道疾患患者が受診し、または手術の指導を要請されている。従って当院として北九州、東南九州一円の食道疾患のセンター（中核施設）として機能させたい。
- (2) 大分県内には肺癌の手術ができる施設が10施設ある。研究会等を通して指導的役割を果たしたい。